

わらじの会編 「地域と障害 しがらみを編みなおす」

現代書館 四六判並製 404 ページ・税込み 3150 円

このたび、わらじの会編著「地域と障害—しがらみを編みなおす」を、現代書館から刊行いたしました(四六判並製 404 ページ・税込み 3150 円)。

この本は、わらじの会30周年を記念して出版しました。しかし、内輪向けの記念誌ではありません。月刊わらじでおなじみの固有名詞オンパレードのスタイルながら、あえて固有名詞(しがらみ)の世界を通して、日本の社会・福祉状況、さらには国連・障害者権利条約の世界に対し、ひとつの提起を行うことをめざしました。欧米に比べて遅れた日本、日本の中で遅れた埼玉……しかし、遅れたからこそ見えてくること、付け加えることがあるのだと自負しています。

ぜひ、お読みいただいて、ご批判を賜りたく、ご案内申し上げます。書店、オンラインショップでお求めいただければ、幸いです。



地域 「もう10数年前のある日、卵屋の鈴木操さんが、『山下さん、これはどう考えたらいいかな?意見を聴かせてほしい。』と言った。」(**しょうがい** 障害が照らし出す地域 / 山下浩志)

自立と共生 「彼は車椅子に乗せた足をぶらぶらさせた。『サッカー』と言っているのだと私は思った。『もう一度聞きます。中学校生活で一番楽しかったことはなんですか?』面接官は質問だけを繰り返した。質問のほかは沈黙しかなかった。」(**あたりまえに生きる** / 今井和美)

医療 「『こんなのでよく生きていたね』と言うと、彼女は得意そうに『そうなのよ、意識がない時も死にたくないと呼んでほしいのよ』と答えた。その彼女は、『私は臓器を取られる最短距離にいるのよ。』と言っていた。」(**死生の橋の憩い** / 水谷淳子)

仕事 「家庭の中や、私たちのようなささやかな取り組みの中で当たり前に行われている、『共に働く』ことが社会全般に広がれば、誰にとってももっと生きやすい世の中になるのではないだろうか。」(**共に働く** / 巽孝子)

学校 「『あなたはなんでこんなことに関わっているんだ?』最近も言われた。『養護学校に勤めているのに、なんで TOKO(どの子ども地域の学校へ!公立高校へ!東部地区懇談会)に来るんだ?』なりゆきだ。なりゆきで矛盾を抱えてしまえば、そのまま抱え込んでいくしかない。厚かましい性格なんだ。」(**地域で共に**は学校から / 竹迫和子)

バリアフリー社会 「時として恋人を追いかけて改札に駆け込みたい時に、『車椅子の方はあちらです。ちょっとお待ち下さい。』ではなく、『バカ!全力で追え!手助けはするぞ』と、そんな、時としてマニュアルどおりではない関係を少しでもつくれたらと、車輪の一步を回す。」(**安心・安全のアクセスから、より良い腐れ縁の信頼関係のアクセスへ** / 樋上秀)

ご近所 「武田さんには障害を持つ子どもがいたが、周りの人にはあまり知らせてなかった。幸子さんの介護に入る時が、せめて心の許せる時だったのかも知れない。幸子さんに弱音を吐いたり、慰められたりという関係ができていたようだった。」(**ながーいつきあい!** / 平野栄子)

ボランティア 「赤ん坊の時から背負われてわらじの会に参加していた長女は、その後1年ほど『わらじ細工』の事務局に入ったが、後に『高校時代に介助に入ることで、片山家の彩ちゃんから彩さんと呼ばれるようになり、『わらじでの自立』を果たした』と会報『月刊わらじ』に記している。」(**ボランティアと制度の間に横たわるものは** / 片山いく子)

ハードル 「彼はわざとやったんじゃない、障害のある人に向かってそんな失礼なことを言うてはいけないのだと気持ちを押し殺し、嬉しいわけでも悲しいわけでもないのに自然に漏れた薄ら笑いを浮かべながら、自分の顔に飛び散ったおかずをそっと拭き、私は黙って介助を続けた。結局その日も答えの出ない苦悩に頭を抱えつつ家路に着き、また障害者のボランティアの現実打ちひしがれることになった。」(**障害者との関わりを通して見えたもの** ボランティアの視点から / 田島玄太郎)

福祉 「お葬式の時に両親が喪服を持ってきてくれて、ひとり暮らしをするようになって『りっぱにせいちゃんになりましたとおとうさんがゆた(言った)』。『きょうはおれはどしたんでしょ ころがうれしくて そらみただと ゆた(言いたい) おれはいそいで くるまですのって ひとりであるの』(自力でタイプ打ちした文章)。(**オエヴィスと藤崎稔君とわたしの話** / 本田勲)